

史料紹介

本興寺本『源氏物語』花散里巻 翻刻

本橋裕美

【凡例】

一、頁数として『鷲津本興寺本宝蔵聖經典籍目録』内の目録番号を示した。本文は各頁十行、見開き二十行であり、数字で行数を示した。

一、翻刻本文は、漢字・仮名ともに通用の字体を用いる。

1. 仮名遣い、反復記号、送り仮名は底本のままとする。

2. 濁点や句読点は付さない。ただし、本文に濁点がある場合はその通り表記する。

3. 改行や字下げなどは、可能な限り原本に合わせる。

一、【校異】は、『源氏物語大成 第一冊 校異編』（中央公論社、

一九八四年 略称〈大成〉）に依り、原則として表記の相違は記さず、語の異なりのみを示す。ただし、仮名遣い等、相違として提示したこともある。校異は本文の行数を以てあらわし、下に異文を記した。補入やミセケチは括弧内に記した。異同箇所を示した諸本の略称は、以下の通りである。（〈大成〉に依る）

・青表紙本系統〈青〉

定 定家本 藤原定家筆 前田侯爵家蔵
大 大島本 飛鳥井正康筆 大島雅太郎氏蔵
横 横山本 横山敬次郎氏蔵

明 三 三条西家本 伝二条為明筆 桃園文庫蔵

・河内本系統〈河〉 七 七毫源氏 伝頓阿筆 東山御文庫御蔵

宮 高松宮家本 隆旬筆 高松宮家御蔵

尾 尾州家本 伝藤原為家筆 徳川侯爵家蔵

平 平瀬本 伝藤原為家筆 平瀬陸氏蔵

大 大島本 大島雅太郎氏蔵

鳳 鳳来寺本 鳳来寺蔵

・別本〈別〉 御 御物本 東山御文庫御蔵

陽 陽明家本 伝甘露寺資経筆 近衛公爵家蔵

※〈大成〉のみ諸本の系統とは別に先に記した。

一、補入、ミセケチ、書入などがある場合は【注記】に記した。

●NO. 173

- 1 人しれぬ御こころつからの物おもはしきは
- 2 いつとなき事なめれとかくおほかたの世
- 3 につけてさへわつらはしうおほしみたるゝこと
- 4 のみまさればこゝろほそく世中なへてい
- 5 とはしうおもひめくらし給ふにさすかなること
- 6 おほかりれいけい殿ときこえしは宮たちも
- 7 おはせず院かくれさせ給て後いよ／＼哀なる御有さまをたゝ此大将御心はへにもて
- 8 かくされてすくし給なるへし御おとうとの
- 10 三の君うちわたりにてはかなくほのめき

《校異》

- ④こゝろほそく―〈大成〉もの心ほそく
- ⑤おもひめくらし給ふに―〈大成〉おほしならるゝに 〈河〉思ひめくらし給に 〈別〉おほしめくらさるるに
- ⑧大将御心はへ―〈大成〉大将殿の御心 〈河〉大将の御心はへ 〈別〉大将の君御―大将君陽
- ⑨御おとうと―〈大成〉御をとうと 〈別〉御をとうと陽
- ⑩はかなく―〈大成〉はかなう 〈青〉は（は）かなう大

●NO. 174

- 1 給ひしなこりれいの御心なればさすかに
- 2 わすれもはて給はすわさともはたもてなし

- 3 給はぬに人の御こゝろをのみつくしはて給へ
- 4 かめるをも此ころのこることなくおほしみたるゝ
- 5 世のあはれのくさはひには思ひいて給ふもしの
- 6 ひかたくてさみたれの空めつらしくはれたる
- 7 雲まにわたり給なにはかりの御よそひ
- 8 ならすうちやつしてこせむなどもことになく
- 9 しのひ給へり中川のほとおはしすくるに
- 10 さゝやかなるいへの木たちなどよしはめるに
- 11 よくなるさうのことにあつまをしらへてかき
- 12 あはせにきはゝしくひきならすなり御みゝ
- 13 とゝまりて門ちかなるところなればすこし
- 14 さしいてゝ見れ給へればおほきなるかつらの
- 15 木のをひ風にまつりのころおほしいてられて
- 16 そこはかとなくけはひをかしきをたゝひ
- 17 とめ見給ひしやとりなりとおもひ出給ふ
- 18 にとゝならずほとへにけるおほめかしくやと
- 19 つゝましけれとすきかてにやすらい給ふ
- 20 おりしもほとゝきすなきてわたるももよ

【校異】

- ①なこり―〈大成〉なこりの 〈青〉なこり明三 〈河〉名残 〈別〉なこり
- ②わさともはたもてなし―〈大成〉わさともゝてなし 〈河〉わさととはた 〈別〉わさととは御―わさととは陽
- ⑤思ひいて給ふも―〈大成〉思いてたまふには 〈青〉思ひいて給に明―思いて給には三 〈河〉おもほしいて給事も 〈別〉思

いて給に

⑦御よそひならず―〈大成〉御よそひなく 〈河〉御よそひならず

⑧ことになく―〈大成〉なく 〈河〉ことになく 〈別〉ことになく御―こよなく陽

⑨しのひ給へり―〈大成〉しのひて 〈河〉忍給へり 〈別〉しのひ給へり御 ⑩さうのことにあつまをしらへて―〈大成〉ことをあつまにしらへて 〈河〉さうの琴にあつまをしらへあはせて

よし／＼しうひきならずなり

⑫ひきならずなり―〈大成〉ひきならずなり

⑬とまりて―〈大成〉とまりて 〈河〉とまりて七宮尾鳳大〈別〉とまりて御

⑭給へれば―〈大成〉たまへは 〈別〉給へれば御

⑮おもひ出給ふに 〈大成〉みたまふ 〈河〉おもひ出給に 〈別〉み給に陽

⑯わたるも―〈大成〉わたる 〈河〉わたるは 〈別〉わたるも

●NO. 175

1 ほしきこえかほなれば御くるまをしかへさ

2 せ給ひてれいのこれみつをいれ給ふ

3 をちかへりえそしのはれぬほとゝきす

4 ほのかたらひしやとのかきねにしん殿とおほし

5 きやのにしのつま戸をしあけて人々居たる

6 へしきき／＼もきゝしるこゑなりければ

7 こはつくりけしきとりて御せうそこきこ

8 ゆわかやかなるけしきともあまたしておほめくなるへし

9 ほとゝきすかたらふ声はそれなからあな

10 おほつかなさみたれの空ことさらにたとると

11 みればよし／＼うへしかきねもとていつるを

12 人しれぬ心にはねたくも哀にも思けりさも

13 つゝむへき事そかしとことほりをおもほせは

14 さすかにすきかてなるへしかやうのきははつ

15 くしの五節こそらうたけなりしはやとまつ

16 おほし出れはいかなる事につけても御心の

17 いとまなからんかしくるしけなり年月を

18 へてもなをかやうにみしあたりのなさは

19 すくし給はぬにしもそ中／＼あまたの人の

20

【校異】

①をしかへさせ給ひて―〈大成〉をしかへさせて 〈河〉をしかへさせ給て 〈別〉をしかへさせ給て

②これみつを 〈大成〉これみつ 〈河〉これみつを鳳

③をちかへり―〈大成〉おちかへり

④つま戸をしあけて人々居たるへし―〈大成〉つまに人／＼ゐたり 〈河〉つま戸におしあけて人／＼ゐたるへし 〈別〉つま戸

⑤きゝしるこゑなりければ―〈大成〉きゝしこゑなれば 〈河〉きゝしる声なりければ

⑥けしきともあまたして―〈大成〉けしきともして 〈河〉けはひともあまたして 〈別〉けわひともして

- ⑩ かたらふ―〈大成〉ことゝふ 〈青〉かたろふ明―かたらふ三
 ⑪ それなから―〈大成〉それなれと 〈河〉それなから大
 ⑫ ことさらに―〈大成〉ことさら 〈青〉ことさらに明三 〈河〉
 ことさらに 〈別〉ことさらに
 ⑬ ねたくも―〈大成〉ねたうも
 ⑭ 事そかしと―〈大成〉ことそかし 〈青〉ことそかしと明 〈河〉
 事そかしと
 ⑮ ことほりをおもほせはさすかにすきかてなるへし―〈大成〉こ
 とわりにもあれはさすかなり 〈河〉ことほりをおもほせはさす
 かにすきかてなるへし（おもほせは―おほほせは大） 〈別〉さ
 すかにすきかたし
 ⑯ きはには―〈大成〉きはに 〈河〉きはには 〈別〉きはには
 ⑰ 五節こそらうたけなりしはや―〈大成〉こせちからうたけなり
 しはや 〈河〉五節こそ 〈別〉こせちこそうたけなりし御
 ⑱ おほし出れは―〈大成〉おほしいつ 〈河〉おほしいつれは
 〈別〉ナシ御
 ⑲ いかなる事につけても―〈大成〉いかなるにつけても 〈青〉
 いかなるに（に）つけても大 〈河〉いかなる事に
 ⑳ いとまなからんかし―〈大成〉いとまなく 〈河〉いとまなか
 らんかしと
 ㉑ あたりのなさけは―〈大成〉あたりなさけ 〈青〉あたりの横
 〈河〉あたりのなさけは 〈別〉あたりのなさけは
 ㉒ しもぞ―〈大成〉しも 〈河〉しもそ

【注記】

③をちかへり 《書入》右横に「源」

●NO.176

- 1 物おもひくきなりけるさてかのほいのところは
 2 おほしやりつるもしるく人めなくしつかにて
 3 おはする有さま見給ふにもいとあはれのみ
 4 とりそへたりまつ女御の御かたにてむかしの
 5 御物かたりなときこえ給ふに夜ふけにけり
 6 廿日の月さしいつるほとにいと木たかき
 7 かけともこくらくみえわたりてちかきたち
 8 花のかほりなつかしくにほひて女御の御け
 9 はひのすこしね給ひにたれとあくまでよう
 10 ひありてあてにらうたけなりすくれて
 11 花やかなる御おほえあらさりしかとむつまし
 12 くなつかしきにはおほしたりし物をなとお
 13 もひいてきこえ給ふにしもむかしのことかき
 14 つらねおほされてうちなき給ふほとゝきす
 15 有つるかきねのにおおなしこゑに打なく
 16 したひ来にけるよとおほさるゝほともえむ
 17 なりかししいかにしりてかなとしのひやかに
 18 うちすし給ふ
 19 たち花のかをなつかしみ時鳥はなちる里
 20 をたつねてそとふいにしへわすれかたうおほ

【校異】

①おもひくきなりけるさてかのほいのところは―〈大成〉おもひ

くさなりかのほいのところは 〈河〉おもひくさなりけるさてかのおはしつる所は七尾平鳳―さてかのおはしけるところは宮―さてかのおはす所は大

③有さま―〈大成〉ありさまを 〈河〉ありさま

③見給ふにもいとあはれのみとりそへたり―〈大成〉みたまふもいとあはれなり 〈河〉あはれのみとりそへたり

⑧御けはひのすこしねひ給ひにたれと―〈大成〉御けはひねひにたれと 〈河〉御けはひのすこしねひ給ひにたれと

⑨ようひありて―〈大成〉よういあり 〈河〉よういありあくまであてやかに

⑪御おほえあらさりしかと―〈大成〉御をほえこそなかりしかと 〈青〉おほんおほえ横 〈河〉御おほえならさりしかと 〈別〉御おほえにこそあらさりしかと

⑪むつましくなつかしきには―〈大成〉むつましうなつかしきかたには 〈河〉むつかしう心くるしきかたには 〈別〉むつかしうこゝろくるしきかたには

⑬給ふにしも―〈大成〉給につけても 〈河〉給にしも

⑳いにしへ―〈大成〉いにしへの

⑱うちすし給ふ―〈大成〉うちすんし給 〈青〉うちすし三 〈別〉くちすさひ

⑳わすれかたうおほえ給へらるゝ―〈大成〉わすれかたき 〈河〉わすれかたうおほえ給へらるゝ

【注記】

⑫なつかしきには 《書入》「に」の右横に「かた」

⑲たち花の 《書入》右横に「源」

●NO.177

- 1 え給へらるゝなくさめにはまつまいり侍ぬへ
- 2 かめりこよなくこそまきるゝ事うちそふ
- 3 かたおほふ侍けれとおほかたの世にしたかふ
- 4 物なりければはかなきむかし語もきかす
- 5 すへき人すくなくなりゆくをましてい
- 6 かにつれ／＼もまきるゝことなくおほさるらん
- 7 ときこえ給ふにみないとさらなる世なれと
- 8 物をいとあはれとおほしつゝけたる御けし
- 9 きあさからぬをなを人の御さまからにや
- 10 おほくのあはれそひける
- 11 人めなくあれたるやとはたち花の
- 12 はなこそ軒のつまとなりけれとはかりの給へ
- 13 るもさはいへと人にはいとことなりけりと
- 14 おほしくらへらるにしおもてにはわさとなく
- 15 しのひやかにうちふるまひ給ひてのそき
- 16 給へるもめつらしきにそへて世にめなれぬ
- 17 御さまなれはつらさもわすれぬへしなにや
- 18 かやとれいのなつかしくかたらひ給ふも
- 19 おほさぬ事にはあらさるへしかりにもみ給ふ
- 20 かきりはをしなへたるきはにしあらねは

【校異】

①まつ―〈大成〉なを 〈青〉なを(まつ)横―まつ明三

- ①まいり侍ぬへかめり―〈大成〉まいり侍ぬへかりけり 〈河〉まいりくへかりけり 〈別〉まいり侍へかりけり御
- ②こよなく―〈大成〉こよなう
- ②まきるゝ事―〈大成〉まきるゝことも 〈河〉まきるゝ事宮尾平鳳大
- ②うちそふかたおほふ侍れと―〈大成〉かすそふこともはへりけれ 〈河〉うちそふかたおほく 〈別〉そふこともはへりけれ―かすはへりけれ陽
- ④物なりければはかなき―〈大成〉ものなれは 〈河〉ものなりければはかなき
- ④きかすすへき―〈大成〉かきくつすへき 〈青〉かきつくし横〈河〉きかすへき 〈別〉かきつくすへき
- ⑤ましていかに―〈大成〉まして 〈河〉ましていかに 〈別〉ましていかに
- ⑤すくなく―〈大成〉すくなう
- ⑥まきるゝことなく―〈大成〉まきれなく
- ⑦みないとさらなる―〈大成〉いとさらなる 〈河〉みないとことさらなる
- ⑧あはれと―〈大成〉あはれに 〈河〉あはれと物を 〈別〉ものをいとあはれにおほし―ナシ御―あはれと陽
- ⑨あさからぬをなを―〈大成〉あさからぬも 〈青〉あさからぬをなを横 〈河〉あさはかならぬも
- ⑩おほくのあはれそひける―〈大成〉おほくあはれそゝひにける 〈青〉おほくあはれそそひける明三 〈河〉おほくのあはれそひける七宮尾平鳳―あはれそひけり大 〈別〉おほくのあはれそひける

⑫の給へるも―〈大成〉のたまへる 〈青〉の給へは(る)明 〈河〉の給にも七―のたまふも宮尾平鳳大 〈別〉の給へるもさい多と

⑬おほさぬ事には―〈大成〉おほさぬことに 〈青〉おほさぬには(「は」左に○) 大―事には横明三 〈河〉事には 〈別〉むけにおほさぬことは御―むけにおほえぬには陽

⑭をしなへたるきはにしあらねは―〈大成〉をしなへてのきはにあらす 〈青〉をしなへてのきはにあらねはにや明三 〈河〉をしなへたるきはにしあらねは 〈別〉をしなへてのきはにあらねはにや陽

【注記】

⑤すへき 《ミセケチ》「す」

●NO.178

- 1 さま／＼につけていふかひなしなどおほさるゝ
- 2 はなければにやにくけなく我も人もなき
- 3 けをかはしつゝすくし給なりけりそれ
- 4 をあひなしと思ふ人はとにかくにとうちか
- 5 はるを又ことほりの世のさかとおもひなし給
- 6 ありつるかきねもさやうにて有さまかはり
- 7 にたるあたりなりけり

【校異】

- ①いふかひなしなど―〈大成〉いふかひなしと 〈河〉いふかひなしなど
- ④あひなし―〈大成〉あいなし

④とにかくとうちかはるを又―(大成)とにかくにかはるも
〈青〉とかくにかはるも明三 〈河〉とにかくとうちかはるを
又 〈別〉かはるも―うつりかはるも御―うつりかはるをも陽

本研究は、二〇二二年度愛知県立大学学長特別研究費の成果の一部である。

貴重な所蔵品の調査と本稿の掲載をご許可くださった常霊山本興寺(静岡県湖西市鷺津)様に深く御礼申し上げます。

(もとはし ひろみ/愛知県立大学日本文化学部国語国文学科
准教授)